

Title	幾つかの和歌山県串本町産軟体動物の特大の貝殻
Author(s)	久保田, 信
Citation	本覺寺杼貝 (2018), 83: 17-18
Issue Date	2018-01-21
URL	http://hdl.handle.net/2433/228942
Right	
Type	Article
Textversion	publisher

本 攪 寺 杼 貝 (83), 2017

幾つかの和歌山県串本町産軟体動物の 特大の貝殻

Shin Kubota: Some giant molluscan shells from
Kushimoto Town, Wakayama Prefecture, Japan

久保田 信

〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町 459

京都大学フィールド科学教育研究センター 瀬戸臨海実験所

現生の海産の軟体動物 6 種（オオコシダカガンガラ；シ
マメノウフネガイ；センジュガイモドキ；タガヤサンミナ
シ；マガキガイ；ミノガイ）の特大の貝殻について、最近、
本誌で報告した（久保田，2017a, b）。これらに続き、今回、
和歌山県串本町での打上採集物で、前岩崇氏が近年に発見
し、昨今の黒潮貝類同好会の定例開催中に無料配分された
中で見つかった 3 種（タガヤサンミナシ、ベニエガイ、マ
ツバガイ）の特大の貝殻について記録する（図 1）。

これまで日本最大のマツバガイは、鹿児島県産の殻長
86 mm、殻幅 7.2 mm の生体だったが（築地新ら，2002）、
本個体（図 1, 右）は打上で貝殻が多少削られていたが、
両者はほぼ同大だった。ベニエガイはさらに成長できたは
ずであるが、貝殻に 1 個の穿孔（裏側から測定して直径 2
mm）があり、肉食性の巻貝に捕食されていた（図 1, 中）。
タガヤサンミナシは同県産個体（久保田，2017a: 殻長 94.5

mm, 殻幅 45 mm) とほぼ同大であった (図 1, 左)。

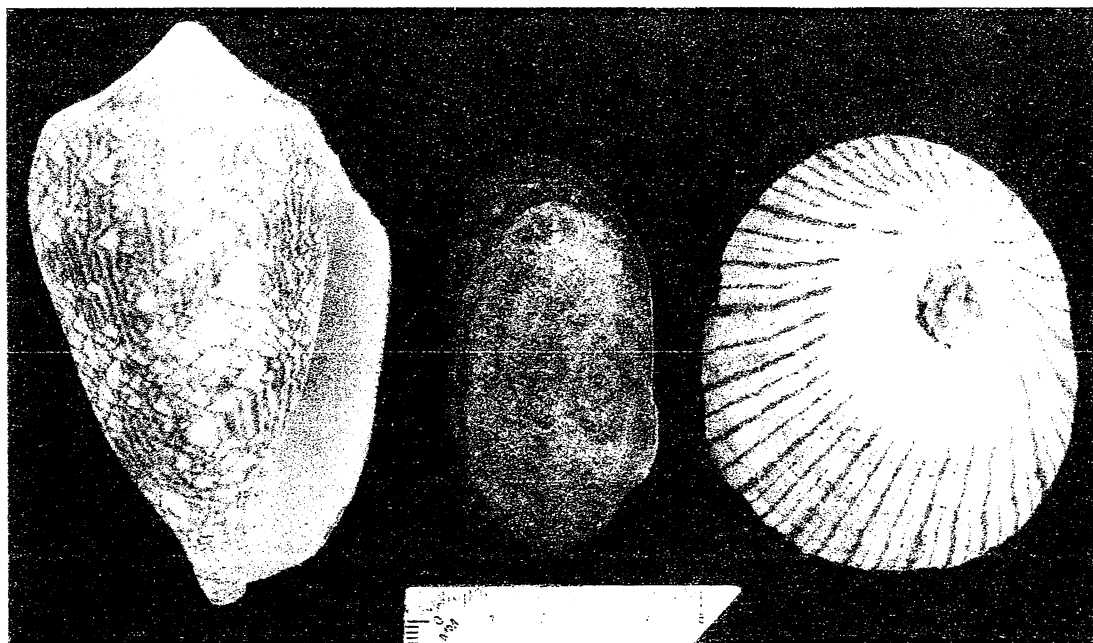


図 1 . 和歌山県串本産の特大の貝殻 . タガヤサンミナシ

(左 : 殻長 90 mm, 殻幅 48 mm) ; ベニエガイ (中 :
殻長 75 mm, 殻高 39 mm, 1 個の穿孔に留意) ; マツバ
ガイ (右 : 殻長 84 mm, 殻幅 71 mm) .

参考文献

久保田 信 . 2017a . 最近入手した特大の貝殻 . 本攪寺杼貝
(81): 31-33 .

久保田 信 . 2017b . 和歌山県串本産の巨大なシマメノウフ
ネガイ (カリバガサ科) . 本攪寺杼貝 , (82): 29-30 .

築地新光子・築地新チサ・久保田 信 . 2002 . マツバガイ
(軟体動物門 , 原始腹足類) の日本最大の野生個体
南紀生物 , 44(2): 106 .